



美しい 県土づくりNEWS

目次

- 2 尾肝要道路の整備が進んでいます！
- 3 野田村で復興工事安全祈願祭を開催
- 5 「建設業新分野・新事業発表フォーラム」を開催！
- 6 いわて花巻空港航空ダイヤ
平成 25 年 3 月 31 日～10 月 26 日
- 7 『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました！

2013 年

2 月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 103 号
平成 25 年 2 月 26 日発行
編集 県土整備企画室



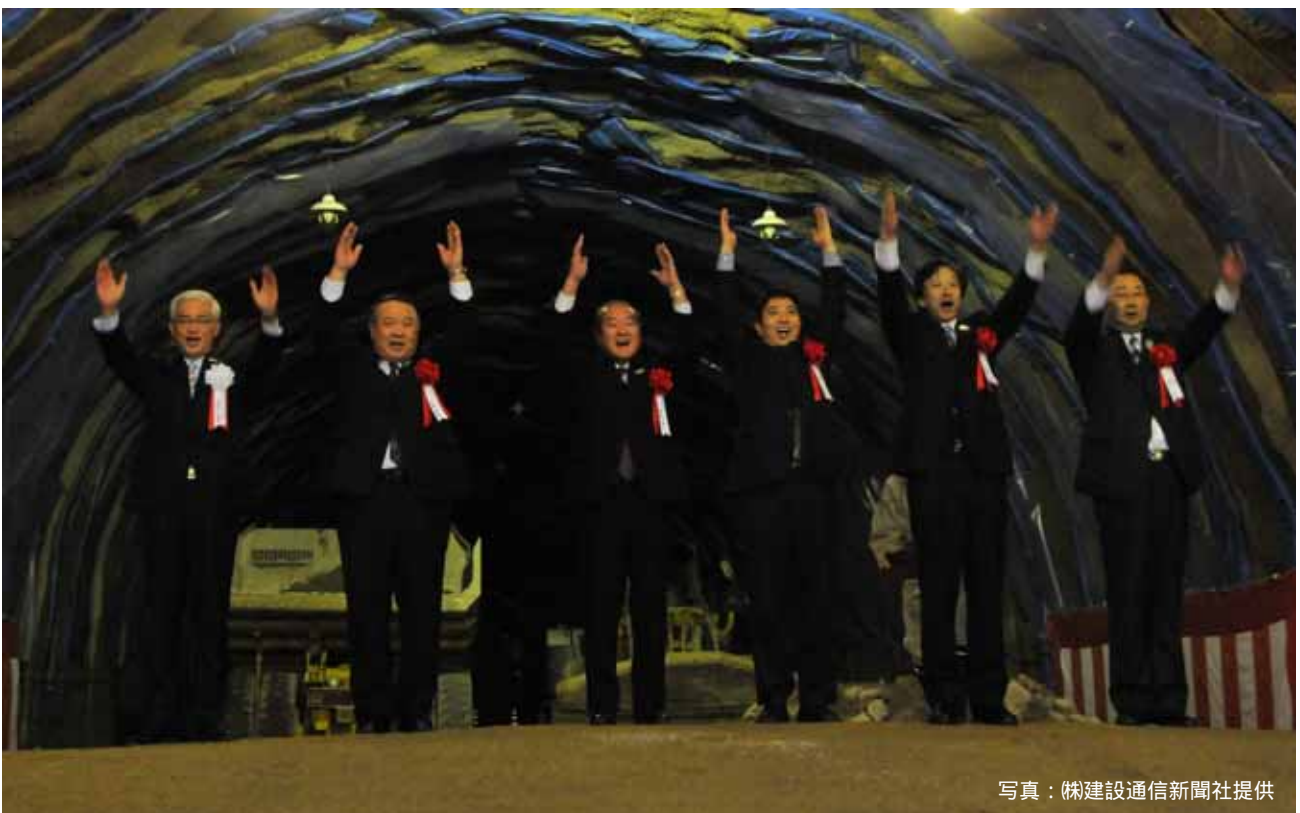
復興道路「尾肝要トンネル」が貫通！

～ 尾肝要道路の平成 25 年度開通に向けて大きく前進 ～

平成 25 年 2 月 10 日、復興道路の一部を構成する「尾肝要トンネル」の貫通式が現地の田野畑村で行われました。

式典では、国土交通省東北地方整備局の徳山局長をはじめ、田野畑村の上机村長や本県の若林県土整備部長など関係者が発破スイッチを押し、貫通地点の確認を終えた後、通り初めを行いました。

来月には震災発生から丸 2 年を迎えます。「尾肝要道路」は平成 25 年度の開通が予定されており、震災復興のリーディングプロジェクトとして、復興道路の整備が大きく前進しています。



写真：(株)建設通信新聞社提供

「尾肝要道路」の整備が進んでいます！

道路建設課

震災復興のリーディングプロジェクトとして、国がかつてないスピードで事業推進している「復興道路」の一部である三陸沿岸道路「尾肝要道路」の整備が進んでいます。

「尾肝要道路」は、平成18年度に事業化されましたが、平成23年11月21日には、路線延長の6割を占める長大な「尾肝要トンネル（延長2,736m）」の本格的な掘削着工を契機に「復興道路着工式」を開催し、それから約15ヶ月という驚異的な早さでトンネルが貫通しました。

平成25年2月10日には、トンネル貫通を祝した式典が盛大に開催（表紙写真）されるなど、平成25年度の供用開始に向けて大きく前進しています。

「尾肝要道路」事業概要

事業区間 下閉伊郡田野畑村田野畑 ～ 田野畑村巢合

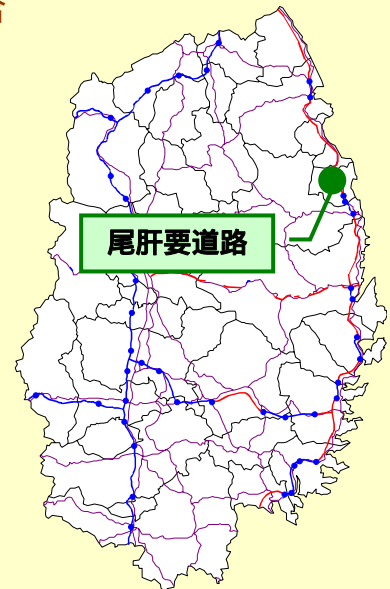
事業延長 4.5 km

うち尾肝要トンネル延長 約 2.7 km

計画幅員 W = 12.0m（自動車専用道路）

事業主体 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

概要 国道45号の交通の難所である、急勾配・急カーブが連続する閉伊坂峠のあい路解消を目的としたものであり、交通の円滑化はもとより、県北沿岸部の都市間所要時間の短縮による交流連携強化が図られ、地域間交流の活性化に大きく寄与するものと期待されています。



トンネル掘削の発生土の有効活用！

事業主体である三陸国道事務所は、震災の復興支援の一環として、トンネル掘削により発生した残土約16,000m³を、津波で被災を受けた「田野畑村サケふ化場」の復旧工事（嵩上げ）に提供するなど、有効活用しています。



サケふ化場予定地（田野畑村明戸地内）

「復興道路」の詳細については、東北地方整備局ホームページをご覧ください

<http://www.thr.mlit.go.jp/road/fukkou/index.html>

「尾肝要道路」の最新情報については、三陸国道事務所ホームページをご覧ください

http://www.thr.mlit.go.jp/sanriku/01_topics/fukkou/okanyoudouro.html

野田村で復興工事安全祈願祭を開催

～ 防災集団移転促進事業・まちづくり連携道路整備事業 県内初の工事着工！～

県北広域振興局土木部
都市計画課
道路建設課

【工事安全祈願祭】

平成25年1月29日、野田村において高台移転用地造成工事(防災集団移転促進事業)と、道路改良工事(まちづくり連携道路整備事業)の安全祈願祭が開催されました。

本箇所が、県内における防災集団移転促進事業及びまちづくり連携道路整備事業での初の工事着工となります。

安全祈願祭には、地権者、施工業者、村、県、国等の関係者約70名が出席し、鍬入れや玉串奉てんなどの神事が行われました。

施工業者を代表して、飛島建設(株)・山口建設(株)特定共同企業体が「それぞれの工期内を無事故無災害で施工したい」と決意を述べられました。



神事(鍬入れ)の儀の様子



施工業者が無事故無災害を誓う

【防災集団移転促進事業の概要<事業主体：野田村>】

野田村では、東日本大震災津波で大きな被害を受けた約80haの区域を建築制限が伴う災害危険区域に指定し、城内、米田、南浜の3地区の高台に計108戸分、約77,500m²の団地造成を行います。県内54地区で防災集団移転促進事業による高台移転が予定されていますが、野田村がいち早く工事着工を迎えることができました。

表1 防災集団移転促進事業の概要

地区名	造成面積	造成区画	うち自主再建	うち災害公営住宅	事業期間
城内	約59,800m ²	81戸	24戸	57戸	H24～H27
米田・南浜	約17,700m ²	27戸	18戸	9戸	H24～H27
計	約77,500m ²	108戸	42戸	66戸	-

【まちづくり連携道路整備事業の概要<事業主体：岩手県>】

東日本大震災津波により浸水し、主要な幹線道路のネットワークが寸断されたことを踏まえ、県道を浸水区域外に付け替え、城内地区の防災集団移転促進事業と一体となったまちづくり支援を図るもので、本箇所が県内のまちづくり連携道路整備事業で初めての工事着工となります。

事業中の三陸沿岸道路(仮称)野田ICのアクセスとしての役割も担い、野田村の復興に大きく寄与する道路となります。



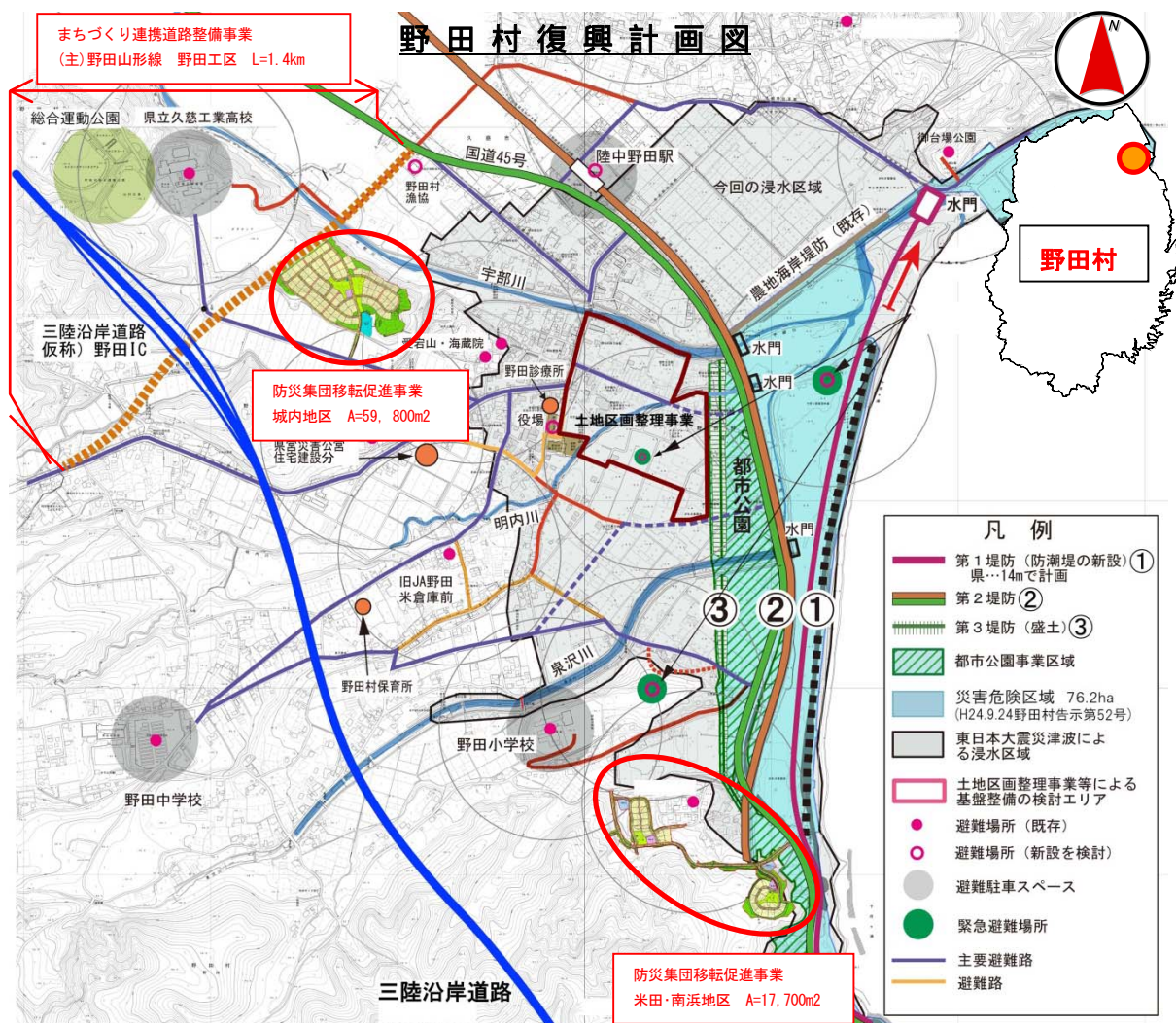
津波により寸断された野田山形線

表2 まちづくり連携道路の概要

路線名	工区名	延長	幅員	事業期間
(主)野田山形線	野田	1.4km	6.0(12.5)m	H24～H27

【おわりに】

今回の安全祈願祭を弾みとして、安全に工事が進められ、一日でも早く完成することを目指し、野田村など関係機関との連携を図りながら復興事業が加速できるよう取り組んでいきます。



「建設業新分野・新事業発表フォーラム」を開催！

建設技術振興課

平成25年1月25日、「第10回建設業新分野・新事業発表フォーラム」を盛岡市のエスポワールいわてで開催しました。

本フォーラムは、県内建設企業の経営体質の強化への取組み意欲を喚起し、構造改革の推進を図ることを目的に、平成15年度から開催しているものです。

当日は、建設業新分野進出等表彰式を行い、最優秀賞3社、優秀賞6社を表彰しました。

表彰式後は、基調講演「地域を元気に！太陽の味がする『食用ほおずき』と建設業の新分野進出」【講師：(有)早野商店取締役 早野由紀子氏（岩泉町）】と、表彰企業9社による事業のプレゼンテーションを行いました。

また、新分野進出企業による商品・事業のPRブースを設置し、19社によるパネル展示を行ったほか、10社による商品のチャリティー販売も行われました。

なお、チャリティー販売の売上金は、2月13日、岩手県共同募金会に寄付させていただきました。



平成24年度 建設業新分野進出等表彰企業
【最優秀賞（3社）】

	分野	企業名	所在地	事業内容
1	農林水産	榎太田建設	奥州市	そば栽培事業
2	環境リサイクル	工藤建設株	奥州市	省エネ効果のわかる環境監視用モニターシステム（環境モニター）の開発・販売事業
3	建設（技術・工法・リフォーム等）	榎近藤設備	西和賀町	雪冷房システム事業

【優秀賞（6社）】

	分野	企業名	所在地	事業内容
1	農林水産	青柳建設株	一関市	人工ほだ場による原木しいたけ栽培・販売事業
2	農林水産	榎青岩建設	二戸市	きくらげの栽培・販売事業
3	環境リサイクル	新工住建株	盛岡市	産業廃棄物の破砕リサイクル事業
4	建設（技術・工法・リフォーム等）	株式会社中央コーポレーション	花巻市	完全封孔型金属溶射事業
5	サービス関連（小売・飲食・サービス等）	横屋建設株	岩泉町	地場産品販売と地元情報発信拠点「ナドダー」開設事業
6	サービス関連（小売・飲食・サービス等）	東野建設工業株	盛岡市	中古住宅再生販売事業

新分野進出等表彰



基調講演



商品・事業PRブース



いわて花巻空港 航空ダイヤ

平成25年3月31日～10月26日



～ 札幌線、大阪（伊丹）線、名古屋（小牧）線が増便！！ ～

空港課

増便 いわて花巻 Iwatehanamaki		札幌 Sapporo	いわて花巻 Iwatehanamaki
CRJ JAL2830	8:45 → 9:40	CRJ JAL2831	7:25 → 8:20
CRJ JAL2834	13:25 → 14:20	CRJ JAL2833	12:05 → 13:00
CRJ JAL2836	15:25 → 16:20	CRJ JAL2837	14:00 → 14:55
E70 JAL2838	17:45 → 18:40	E70 JAL2839	16:20 → 17:15

いわて花巻 Iwatehanamaki	福岡 Fukuoka	いわて花巻 Iwatehanamaki	
CRJ JAL3526	14:00 → 16:10	CRJ JAL3523	11:35 → 13:30

※ いわて花巻⇒福岡：全便7/1～9/30出発のみ5分遅
福岡⇒いわて花巻：全便7/1～9/30到着のみ5分遅

いわて花巻 Iwatehanamaki	名古屋(小牧) Nagoya(Komaki)	福岡 Fukuoka	名古屋(小牧) Nagoya(Komaki)	いわて花巻 Iwatehanamaki	
E70・E75 FDA352	8:55 → 10:10	E70・E75 FDA305	10:10 → 12:30	E70・E75 FDA308	15:30 → 18:30
E70・E75 FDA356	16:20 → 17:35	E70・E75 FDA313	17:35 → 19:20	E70・E75 FDA357	16:50 → 18:30

※ この他、大阪（伊丹）経由福岡乗継便もございます。

増便 いわて花巻 Iwatehanamaki		名古屋(小牧) Nagoya(Komaki)	いわて花巻 Iwatehanamaki
E70・E75 FDA352	8:55 → 10:10	E70・E75 FDA351	7:15 → 8:25
E70・E75 FDA356	16:20 → 17:35	E70・E75 FDA355	14:40 → 15:50
E70・E75 FDA358	19:00 → 20:15	E70・E75 FDA357	17:20 → 18:30

いわて花巻 Iwatehanamaki	名古屋(小牧) Nagoya(Komaki)	高知 Kochi	名古屋(小牧) Nagoya(Komaki)	いわて花巻 Iwatehanamaki	
E70・E75 FDA352	8:55 → 10:10	E70・E75 FDA343	10:10 → 12:45	E70・E75 FDA344	13:15 → 14:10
E70・E75 FDA356	16:20 → 17:35	E70・E75 FDA343	11:40 → 12:45	E70・E75 FDA355	14:10 → 15:50

増便 いわて花巻 Iwatehanamaki		大阪(伊丹) Osaka(Itami)	いわて花巻 Iwatehanamaki
E70 JAL2180	10:05 → 11:35	E70 JAL2181	8:15 → 9:35
E70 JAL2182	12:25 → 13:55	E70 JAL2183	10:35 → 11:55
E70 JAL2184	14:50 → 16:20	E70 JAL2185	13:00 → 14:20
E70 JAL2190	18:40 → 20:10	E70 JAL2187	16:50 → 18:10

いわて花巻 Iwatehanamaki	大阪(伊丹) Osaka(Itami)	宮崎 Miyazaki	大阪(伊丹) Osaka(Itami)	いわて花巻 Iwatehanamaki	
E70 JAL2182	12:25 → 13:55	E70 JAL2435	13:55 → 15:20	E70 JAL2432	9:00 → 10:05
E70 JAL2182	12:25 → 13:55	E70 JAL2435	14:15 → 15:20	E70 JAL2183	10:35 → 11:55
E70 JAL2184	14:50 → 16:20	E70 JAL2185	13:00 → 14:20	DH4 JAC2434	11:15 → 12:25
E70 JAL2190	18:40 → 20:10	E70 JAL2187	16:50 → 18:10	E70 JAL2185	13:00 → 14:20

※ この他、大阪（伊丹）経由の大方、長崎、鹿児島などへの乗継便もございます。

機種説明

表示	機種	座席数	表示	機種	座席数
●	E70 エンブラエル170	76	●	CRJ ボンバルディアCRJ200	50
●	E75 エンブラエル175	84	●	DH4 ボンバルディアDH400	74

※ いわて花巻⇒大阪：全便7/1～9/30出発のみ5分遅
大阪⇒いわて花巻：全便7/1～9/30到着のみ5分遅

- ・平成25年1月22日現在の情報を基に作成しています。今後、変更されることがあります。
- ・ご予約その他詳細については、各航空会社のホームページ又は下記までお問合せください。

日本航空（予約及び運航状況）
（0570）025-071（7時～20時）

フジドリームエアラインズ（予約及び運航状況）
（0570）55-0489（7時～20時）

『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました！

～ 「復興元年」から「復興加速年」へ 応援職員とともに ～

**県土整備企画室
建設技術振興課**

平成 25 年 2 月 7 日から 8 日にかけて、盛岡市において『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました。

県では、技術力の研鑽と向上を図るため、毎年、土木技術研究発表会を開催してきましたが、昨年度は東日本大震災津波からの復旧のため、開催を見送ったところです。

現在も、多くの応援職員の御協力を得ながら、震災からの復旧・復興を第一に取り組んでいるところですが、今年度は、県内市町村や関係団体、さらには応援職員の派遣元の皆様（青森県、秋田県、埼玉県、東京都、静岡県）にも御出席いただき、従来の土木技術研究発表に加え、復旧・復興の報告等も盛り込み、『復興県土づくりシンポジウム』として開催したものです。



応援職員へ御礼を述べる達増知事

主催者を代表し、達増知事から応援職員に対し、「かつてない大規模な災害からの復旧・復興を成し遂げていくためには、技術的・制度的に乗り越えなければならない様々な課題があるが、日本全国からお集まりいただいた皆様が、一つひとつの課題解決に向けて取り組んでいただいていることに感謝申し上げます。遠く住み慣れない土地に赴任され、日夜業務に奮闘されている皆様が気付かれた本県の強み・弱みも含めて御披露いただき、活発な意見交換となることを期待している。」との御礼と激励がありました。

また、開会の挨拶では、佐藤河川港湾担当技監から、「今回のシンポジウムが、今なお「非常時」であるという思いを共有し、復旧・復興をさらに加速させるひとつの弾みになることを願う。また、復旧・復興に携わっている皆様一人一人が、貴重な経験を活かし、将来、不幸にもいずれかの地域で大きな災害があった時には、都道府県や市町村の壁を越えて、一丸となって対応できる、人のつながりが広がっていく力になることを願っている。」との挨拶がありました。



開会の挨拶 佐藤河川港湾担当技監

本号では、7日の午後に行われた若林県土整備部長及び陸前高田市都市計画課の山田課長の講演と応援職員による発表の概要について御紹介します。

7日午前、8日午後に行われた発表の概要は、次号でお知らせします。

「本県の復興の現状と課題そして対応」 若林県土整備部長



若林県土整備部長

若林県土整備部長からは、「本県の復興の現状と課題そして対応」と題して、はじめに、三陸復興道路整備事業や災害公営住宅等整備事業など復興事業の現状と、これら復興事業を進める上での課題として、復興交付金制度やマンパワー、用地取得などを挙げ、現在の県の対応状況について説明しました。

県土整備部の組織体制の話題では、H14とH24の当初予算と職員数を比較(H14:1,364億円、853人 H24:1,852億円、803人)し、応援職員の協力を得ている現在でも、当時より少ない人数で、多くの事業を実施しなければならない現在の業務環境を説明しました。

また、今回の災害対応を踏まえた話題として、「情報収集手段が途絶された中、固定カメラから得られるわずかな被害情報をもとに全体像を描く創造力」や「非常時を想定していない法制度の抜本的対応」などの必要性を指摘しました。

講演のおわりには、「**忘れない あの津波を 忘れない 亡くなった方々を 忘れない あの三陸を**」と震災で亡くなられた市町村職員の方々と三陸への想いを語り、「素晴らしい三陸を取り戻すために、皆さんと一緒に復興に取り組んでいきたい」と決意を述べました。

「陸前高田市の復興まちづくりについて」 陸前高田市 山田都市計画課長



陸前高田市 山田都市計画課長

復興の最前線で活躍される陸前高田市の山田都市計画課長からは、「陸前高田市の復興まちづくりについて」をテーマに、土地利用計画の考え方や業務推進上の課題等について講演いただきました。

土地利用計画は、「低地部が津波の浸水を免れるような高さを確保することを基本に、山側にシフトした新しいコンパクトな市街地の形成を図る。」の方針に基づき、安全の確保のためには、T.P12.5mの海岸防潮堤とT.P8~10mの市街地の嵩上げを実施する計画であることを説明し

ました。そのうえで、嵩上げた土地に住宅や事業所を建設できるのは、早くても平成27年夏頃との見通しを示し、中心市街地の先行整備の取組を紹介されました。

また、業務推進上の課題として、多量に発生する残土仮置き場の確保やマンパワーの確保を挙げ、マンパワーについては、県等を通じて全国の自治体に協力を呼びかけると共に、任期付職員などの新しい制度も活用しながら職員を確保しなければ、復興そのものが停滞する可能性があるとの懸念を示されました。



約200名の方々が来場

「復興道路に係る県の取り組み」 道路建設課 安原主査（埼玉県）

埼玉県から県土整備部道路建設課に赴任されている安原主査からは、復興道路の整備にあたっての岩手県の取組などについて紹介がありました。

発表では、県が復興道路整備促進対策室を設置し、復興道路の整備促進のため、関係機関が連携して各種協議を円滑に進めるための連絡調整会議を開催していることや東北横断自動車道釜石秋田線や宮古盛岡横断道路の用地取得事務を県が受託して実施していることなど、あまり知られていない県の取組について説明がありました。

また、通常は事業着手から4年かかる工事着手を1年で実施する「即年着工」の原動力など、今後の復興を進める上で参考となる事例を紹介されました。



安原譲二主査（埼玉県）

「高田松原津波復興祈念公園のあり方について」 都市計画課 松浦主査（愛知県）



松浦元彦主査（愛知県）

愛知県から県土整備部都市計画課に赴任されている松浦主査は、国と一体となって整備を予定する高田松原震災復興祈念公園の中心的な役割を担っています。

発表では、「日本を代表する公園を目指して」の副題のもと、高田松原地区震災復興祈念公園構想会議における議論の内容や公園に求められる役割・機能及び効果などについて述べられました。

また、今後の展望を「50年、100年先の陸前高田市民、岩手県民が誇れる公園に」として、私案としながらも祈念公園のゾーニングイメージを示されるなど、祈念公園にかける熱い想いを発表されました。

「災害復興公営住宅の整備について」 建築住宅課 鈴木主査（静岡県）



鈴木貴博主査（静岡県）

静岡県から赴任されている鈴木主査は、12名の応援職員と共に、県土整備部建築住宅課において災害復興公営住宅の建設に奮闘されています。

災害復興公営住宅の建設は、復興計画に掲げる3つの原則のひとつである「暮らしの再建」の根幹をなすもので、県が整備する約2,800戸については平成26年度までの完成を目指しています。

発表では、早急に整備を進めるための取組として、設計・施工一括発注方式や敷地提案型買取方式の検討状況について説明された後に、各地で進んでいる建設状況について紹介がありました。また、建設用地の確保が課題としたうえで、既存の制度にとられない岩手方式の発信が必要と提言されました。

「水門・陸閘の遠隔化計画」 大船渡土木センター 山口主任（大阪府）

東日本大震災津波では、地震発生直後、水門操作などのために多くの消防団員が現地に赴き、殉職または行方不明になられており、水門・陸閘の遠隔化操作の重要性を再認識させられました。

大阪府から沿岸広域振興局土木部大船渡土木センターに赴任されている山口主任は、数少ない電気職として、この遠隔化計画に取り組まれています。

発表では、装置に残されたメッセージログや消防団員などのヒアリング等から、遠隔化は「誰でも簡単に使えて壊れない信頼度の高いシステム」の構築が必要と訴え、キーワードとして「多重化」と「単純化」を挙げ、回線や電源の多重化、操作の簡略化や規格の統一化の重要性を発表されました。



山口裕一主任（大阪府）

「河川海岸災害復旧報告及び復興への取組について」沿岸広域振興局土木部 木下主任（福岡県）



木下光文主任（福岡県）

防潮堤や水門等の海岸保全施設の復旧・整備は、まちづくり計画との調整や用地取得の課題、環境配慮などの課題を一つひとつ解決しながら進めていく必要があります。

福岡県から沿岸広域振興局土木部に赴任されている木下主任からは、鶴住居川水門及び片岸海岸の災害復旧事業に係る取組について発表していただきました。

現在の課題としては、41名の共有地や未相続の土地、相続人の中に所在不明者がいる土地があるなど用地取得の長期化に伴う工事着手の遅れのほか、希少野生動物植物への配慮などによる工程の遅れの懸念について発表されました。

「派遣職員における復興への取組状況について」宮古土木センター 奥田主査（山梨県）

山梨県から沿岸広域振興局土木部宮古土木センターに赴任されている奥田主査は、河川港湾課に配属され、主に海岸の災害復旧事業に携わっています。

発表では、奥田主査がこの1年間で携わられた多くの災害復旧事業のうち、借地交渉を行うにも家屋が流失し、所有者の現住所が分からず大変な期間を要した事例などをお話いただきました。

また、多くの応援職員が交代する年度末を迎えるにあたり、赴任当初、県の事務処理を覚えるために、毎年、一からプロパー職員に教えてもらう（時間を割いてもらう）ことが申し訳ないとしたうえで、応援職員同士で県の事務処理も含めた引継ぎができる体制づくりが必要と提言されました。



奥田浩一主査（山梨県）